2027年3月期第2四半期（中間期）
（2026年4月1日～2026年9月30日）

決 算 参 考 資 料

2026年11月12日

株式会社サガミホールディングス

東証プライム・名証プレミア上場　証券コード：9900

2027年3月期第2四半期（中間期） ハイライト

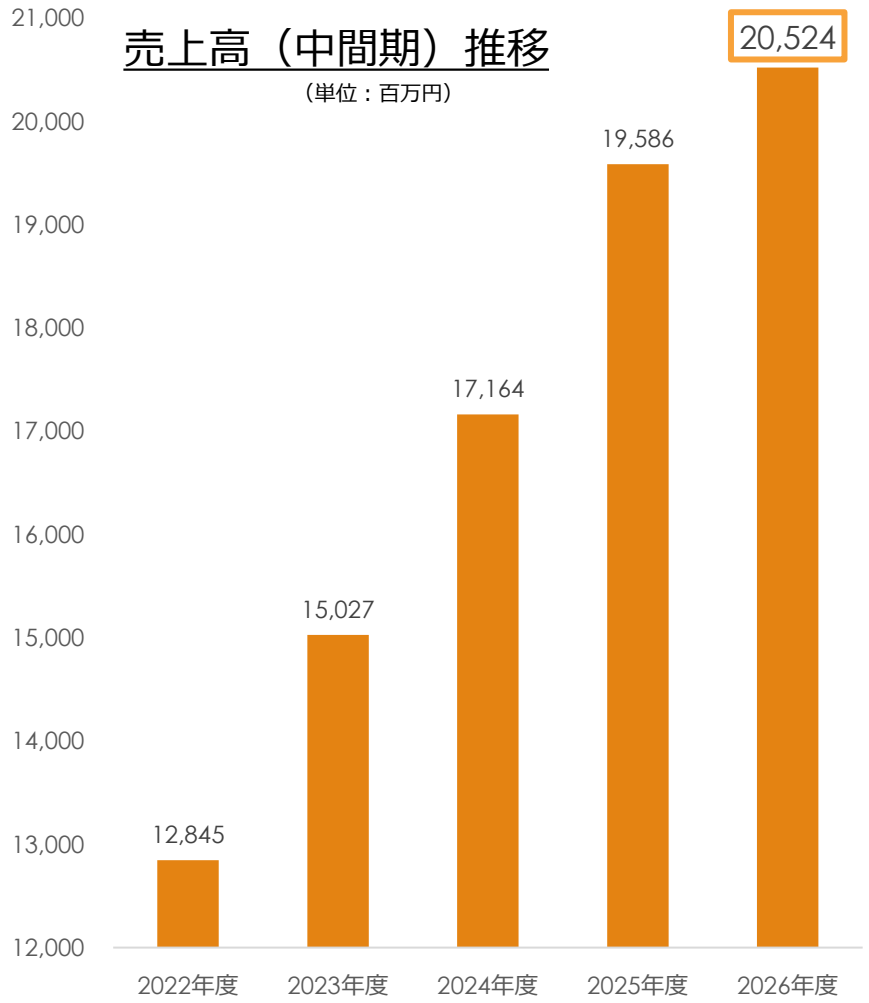
過去最高売上高（中間期）
205億円（前年比：104.7%）

■上半期において、各種コスト上昇が続く中、メニュー価格への転嫁を見送ることで、お客様のご来店いただきやすい環境整備を推進

■お客様の体験価値向上に向け、季節感あふれる商品の提供や販売促進施策の充実を図り、来店促進策を展開

その結果、来店客数が堅調に推移したことに加えて、新規出店によりお客様接点も増加

売上高（中間期）は
創業以来、過去最高を更新



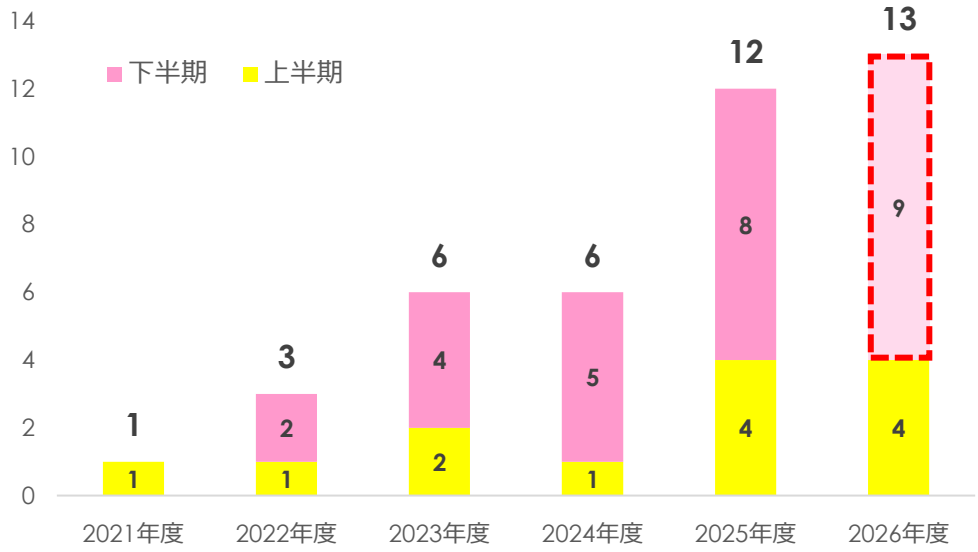
2027年3月期第2四半期（中間期） ハイライト

和食麺処サガミ業態
上半期4店舗出店、下半期は9店舗を出店予定
（業態転換除く）





①業態転換を除く和食麺処サガミ出店数推移（単位：店）



②和食麺処サガミ業態の店舗数推移　※各年度末店舗数（単位：店）



直近3年間で店舗数は**＋40店舗**（予定）

目次

1.	2027年3月期第2四半期（中間期） ハイライト	-2-
2.	連結対象企業の事業内容	-5-
3.	店舗展開の状況	-7-
4.	2027年3月期第2四半期（中間期） 業績概況	-8-
5.	営業利益分析	-9-
6.	財政・キャッシュフローの概況	-10-
7.	2027年3月期第2四半期（中間期）のトピックス	-11-
8.	2027年3月期について	-16-

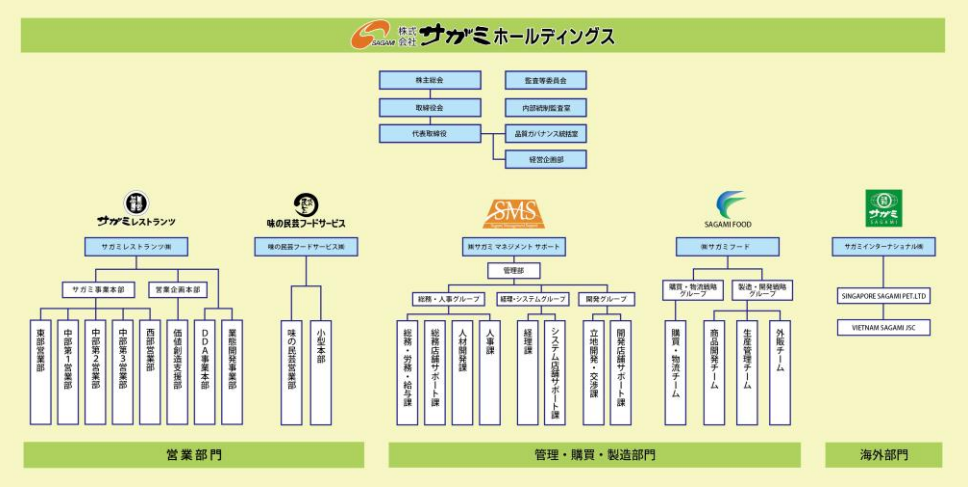
連結対象企業の事業内容

連結対象子会社一覧

名称	所在地	資本金又は出資金	当社の出資比率	事業の内容
サガミレストランツ株式会社	名古屋市	50,000,000円	100%	飲食店の経営 フランチャイズ店舗への材料提供及び経営指導
味の民芸フードサービス株式会社	名古屋市	50,000,000円	100%	飲食店の経営 フランチャイズ店舗への材料提供及び経営指導
株式会社サガミマネジメントサポート	名古屋市	10,000,000円	100%	グループの管理業務 店舗設備のメンテナンス業務
株式会社サガミフード	名古屋市	10,000,000円	100%	食材の仕入・製造業務 輸出入業務
サガミインターナショナル株式会社	名古屋市	10,000,000円	100%	海外事業の統轄
SINGAPORE SAGAMI PTE.LTD.	Singapore	5,750,000米ドル	100%	海外事業（ASEAN）の統轄
VIETNAM SAGAMI JSC	Vietnam	6,490,600,000ドン	100%	飲食店の経営

連結対象企業の事業内容

連結対象子会社一覧



■サガミレストランツ株式会社
主に和食麺処サガミ業態、どんどん庵業態、二代目長助業態を経営しております。

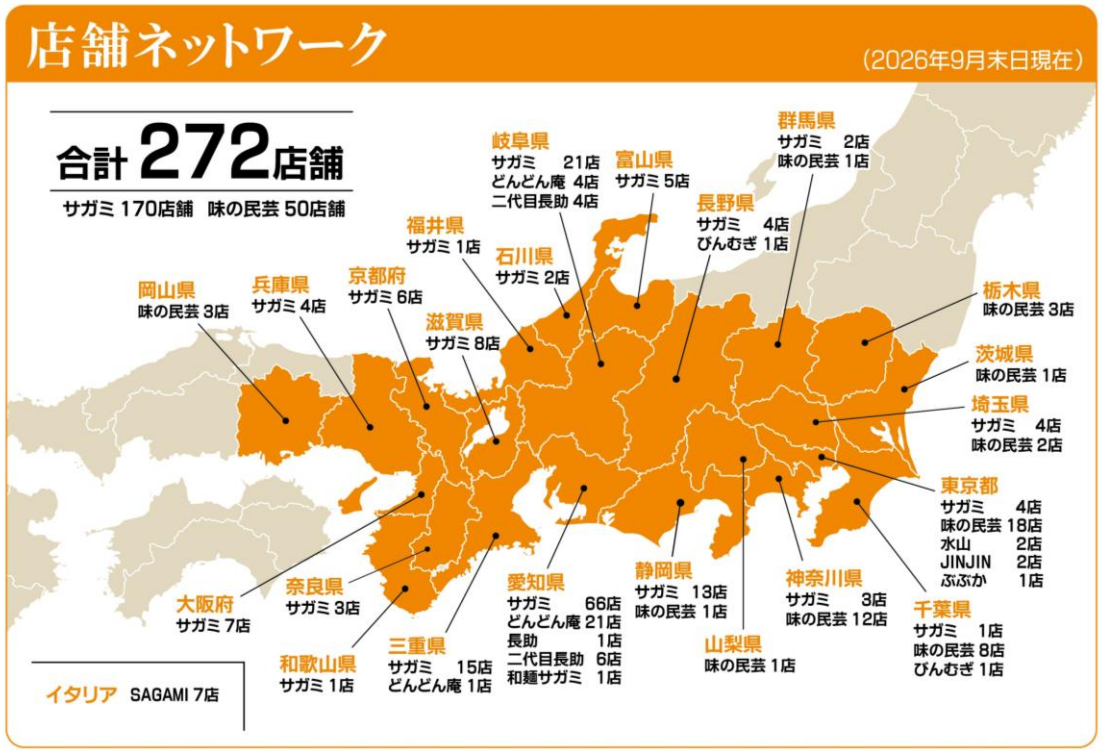
■味の民芸フードサービス株式会社
主に味の民芸業態を経営しております。

■株式会社サガミマネジメントサポート
主に管理業務を行っております。

■株式会社サガミフード
主に食材の仕入・製造を行っております。

■サガミインターナショナル株式会社
主に海外事業展開の統轄を行っております。

店舗ネットワーク



店舗展開の状況

	2026年3月期	2027年3月期第２四半期（中間期）			2027年3月期（計画）		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
和食麺処サガミ	166	5	1	170	14	1	179
味の民芸（FC店舗含む）	50	-	-	50	1	-	51
どんどん庵（FC店舗含む）	28	-	2	26	-	1	27
長助・二代目長助	11	1	1	11	1	1	11
その他国内店舗（FC店舗含む）	9	-	1	8	-	1	8
海外（FC店舗）	10	1	4	7	-	2	8
合計	274	7	8	272	16	6	284

2027年3月期第2四半期（中間期） 業績概況

連結ベースの経営成績

（単位：百万円）

	2026年3月期 第2四半期（中間期）	当初計画 第2四半期（中間期） （2026.5.14発表）	2027年3月期 第2四半期（中間期）	前年差異	計画差異
売上高	19,586	20,500	20,524	938	24
営業利益	1,849	1,400	1,490	△358	90
経常利益	1,875	1,450	1,548	△327	98
中間純利益	1,188	800	1,045	△142	245
一株あたり 中間純利益※	19.72	13.27	17.35	△2.37	4.08

※2026年８月31日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「１株当たり中間純利益」を算定しております。

■売上高、営業利益、経常利益、中間純利益ともに期初計画を上回って推移いたしました。

営業利益分析

期初計画の達成要因

期初計画対比　**＋6.4%**（90百万円）

・新規出店による売上高の増加に加え、既存店においては客数が堅調に維持したことで、売上高は計画を上回って推移。

・物価高に伴い原材料価格が高騰するなか、自社でのコスト管理や改善に取り組んだ結果、売上原価への影響が抑制され、売上総利益の増加に寄与。

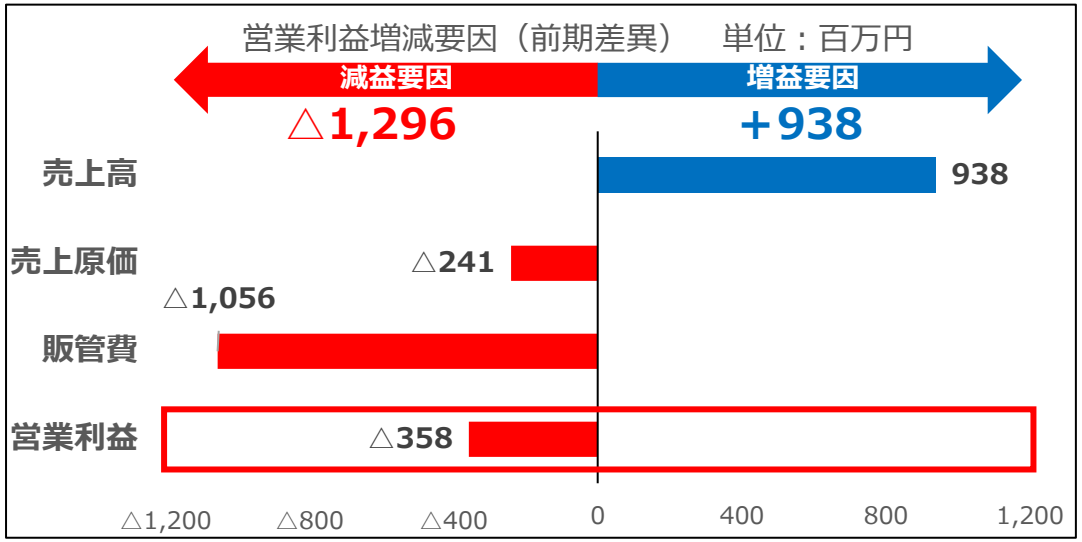
・人件費、水道光熱費、物件費などの各種販管費は増加基調となったものの、売上総利益の確保によりコスト増を吸収し、計画利益を達成。

前期実績との差異要因

前期対比　△19.3%（△358百万円）

・客数の堅調な推移や、各種販促施策の推進により、売上高は増加。

・原材料価格の上昇に加え、人件費、水道光熱費、物件費などの諸コストは増加基調で推移。



財務・キャッシュフローの概況

連結財政状態

単位 （百万円／%）	2026年3月期	2027年3月期 第2四半期（中間期）
総資産	27,123	26,925
純資産	19,659	20,772
自己資本比率	72.4	77.1

連結キャッシュフローの状況

単位 （百万円）	2026年3月期 第2四半期（中間期）	2027年3月期 第2四半期（中間期）
営業活動によるｷｬｯｼｭﾌﾛｰ	1,793	698
投資活動によるｷｬｯｼｭﾌﾛｰ	△1,663	△1,996
財務活動によるｷｬｯｼｭﾌﾛｰ	△673	△659

■減価償却費について
減価償却費は516百万円（前期差異＋87百万円）となりました。
■法人税等について
欠損金等の影響により、法人税等の支払額は895百万円（前期差異＋713百万円）となりました。
■設備投資について
連結設備投資は1,948百万円（前期差異＋308百万円）となりました。

トピックス①サガミホールディングス

■リフレッシュ休暇制度※取得の推進

人材の確保・定着・ワークライフバランス推進に向け、給与及び新卒初任給の引き上げ、全店休業日を2日間設定、従業員のリフレッシュ休暇期間として、最低４日間以上の連続休暇を年3回取得する制度の推進などに取り組みました。
また、連続休暇は一括取得も可能とし、外国籍社員の母国への一時帰省や海外渡航など、多岐にわたるリフレッシュ時間の確保を推奨しております。

※従業員の笑顔をチャージする休暇期間として設定しております。



■地域連携の取り組み

前期に引き続き、万波そばの農作業支援及び共同栽培を実施いたしました。
生産地の高齢化や後継者不足といった課題に対応し、希少な在来種の保全と伝統的な栽培技術の継承に努めております。今後も生産現場への直接的な支援と魅力ある商品の提供を通じて、持続可能な食循環の構築に取り組んでまいります。



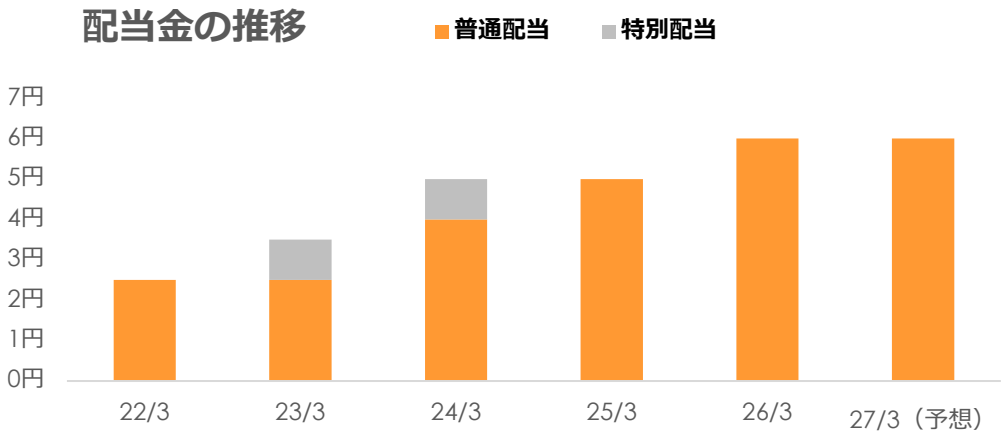
■地球温暖化防止への取り組み

当社は、持続的な企業価値向上を実現していく上で、気候変動がもたらす影響を重要な経営課題と認識しております。本社や一部工場、一部店舗では太陽光パネルの設置により、再生可能エネルギーの活用をしております。また、環境保全の取り組みとして植林地域の持続可能な発展を願い、養殖エビの販売数に応じて、マングローブの植樹を行っております。地球規模での対応が求められる中、当社においても事業活動を通じた環境負荷の低減に向けて取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

トピックス②サガミホールディングス

■株式分割および株主優待制度の一部拡充
東京証券取引所が推奨する投資単位の水準を踏まえ、投資家の皆様がより投資しやすい環境を整えるとともに、投資家層の拡大、及び株式の流動性向上を図るため、株式分割を実施いたしました。また、株主の皆様への還元を一層充実させるため、株主優待制度についても一部拡充いたしました。

■配当方針
持続的な成長と収益基盤の強化を図るとともに、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけております。今後も、内部留保の状況を考慮しつつ、安定的な配当の継続とさらなる利益還元の向上を目指してまいります。



※2026年８月31日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。それ以前の配当金については、2026年８月31日の株式分割後の株式数を基準として換算し、表示しております。



トピックス③和食麺処サガミ

■体験価値の創出
「天然活〆真あなごと九州産真鯵料理フェア」、「厚切り牛たんと仙台味めぐり料理フェア」、「北海道と北のめぐみ料理フェア」の計3回の料理フェアを開催いたしました。また、前期に引き続き、飛騨市と地域資源を活かした「おいしさ」訴求とブランド価値向上を目指した企画として名古屋市内の和食麺処サガミ21店舗で「飛騨の恵み　DE　なごやめしフェア」を実施いたしました。
また、毎月月末日にはそばの食べ放題企画として、「晦日そば」を開催しております。

■コラボレーション
地域社会、及びお客様とのエンゲージメントをより強固なものとするため、今期も7月に、プロ野球中日ドラゴンズ公式戦のゲーム・スポンサーとしてバンテリンドームにて「和食麺処サガミ・ファン感謝DAY」を開催いたしました。今後も地域社会との連携を深め、地域活性化に貢献してまいります。

■ハレの日を彩るレストラン
お子様のお祝いから、おじいちゃん・おばあちゃんの長寿のお祝いまで。
サガミでは、人生の節目となる大切な日を彩るメニューを用意しております。
「お食い初め」をはじめ、ご家族皆様の笑顔あふれる、素敵なひとときを
お楽しみください。





トピックス④味の民芸

■体験価値の創出
「本まぐろ料理フェア」、「活〆あなご食べ比べ料理フェア」、「牛タン料理フェア」、「グルメ紀行北海道フェア」の計4回の料理フェアを開催いたしました。また、前期に引き続き、「旅するサーモン」として、日本各地のご当地サーモンを旬に合わせてご提供していることや、「対馬産黄金あなご」「知床ポーク」など、地域のブランド食材を使用したメニュー展開を実施し、味の民芸でしか味わえない商品提供を心掛けております。



■来店動機の創出
おいしい手延べうどんをより堪能していただくために、味の民芸50周年企画として2回の「手延べうどん食べ放題」を5月と9月に開催いたしました。



■地域交流イベントと食育の取り組み
地域社会への貢献および食育活動の一環として、味の民芸守谷ふれあい通り店において、「手延べうどん　麺づくり体験」を開催いたしました。ご家族連れを中心に多くのお客様にご参加いただき、手づくりの楽しさを通じてうどんへの興味や関心を深めていただく機会となりました。こうした体験型イベントを通じて、地域とのつながりを強化し、ブランド価値の向上を図ってまいります。

トピックス⑤ どんどん庵/二代目長助 サガミインターナショナル

■どんどん庵業態について
「自分好みにカスタマイズ！選ぶ楽しさを味わう」をコンセプトに、麺（うどん・そば・きしめん）や出汁（赤・白）、豊富なトッピングを自由に組み合わせる体験型のセルフスタイルを展開しております。お客様自身が「つけ釜」で麺を温めるなど、「選ぶ・組み合わせる・仕上げる」一連の楽しさを提供することで、他店にはない体験価値の提供をしております。また期間限定メニューとして「料理フェア」を4回実施したことに加え、6月に「どんどん祭」を開催いたしました。



■二代目長助業態について
「二代目長助」業態では、十割そばを日常的に楽しんでいただくことを目指しております。「本物のそばのおいしさ」を味わっていただくために、セルフサービス形態を取り入れ、よりリーズナブルな価格設定を実現し商品提供をしております。また、多くのお客様に十割そばの美味しさを味わって頂くために、期間限定メニューとして「料理フェア」を4回実施したことに加え、9月に「十割そば祭り」を開催いたしました。



■欧州事業について
各店舗においては、日本の四季に合わせたメニュープロモーションを継続的に実施した他、店舗空間を活用して日本語教室や料理教室といったイベントを開催することで、日本文化を発信する拠点としての取り組みを推進いたしました。引き続き、イタリアのお客様に日本文化や日本食文化をお届けできるよう日々努力してまいります。

2027年3月期について

連結ベースの業績予想

単位 （百万円）	2026年3月期	当初計画 2027年3月期	計画（2026.11.02公表） 2027年3月期
売上高	39,359	40,500	40,600
営業利益	2,977	2,400	2,500
経常利益	3,046	2,450	2,550
親会社株主に帰属する当期純利益	1,618	1,200	1,450

2027年3月期について

■2027年3月期の通期業績予想につきましては、コスト上昇など、引き続き厳しい経営環境が見込まれるものの、下半期は概ね当初計画どおりに推移することを見込んでおります。このため、中間連結会計期間の業績を反映し、通期業績予想について修正いたしました。

ディスクロージャーポリシー（Disclosure Policy）

（１）基本方針

サガミグループは、『私たちは、「食」と「職」の楽しさを創造し、地域社会に貢献します～すべては みんなのゆたかさと笑顔のために～』という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

（２）情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示情報伝達システム（TDnet：Timely Disclosure network）に登録し提供しています。
TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。
ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れる場合がございます。
また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

（３）業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。
したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

（４）沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、四半期ごとの決算期末日の翌日から当該決算発表までの期間を「沈黙期間」としております。
この期間は、決算に関する質問への回答やコメントを控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。
なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

（５）ディスクロージャー ポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任（CSR）」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守いたします。